

建設業の社会貢献活動事例

現場で共に学んだSDGs ～小学校への出前教室を通して～

前田建設・スター総合建設・牧野工業共同企業体（富山県）
前田建設株式会社 代表取締役社長 前田 誠

はじめに

私の経歴

私は、会社に入って8年になり、昨年、代表取締役社長に就任致しました。

私は創業家の生まれではなく、前職は富山県の職員であり、福祉関係の出先機関である障害者施設や児童自立支援施設で働いた経験があります。

障害者支援や子どもの非行・虐待の現場にいた自身の経験について、最初は建設業において、なかなか理解されにくいところがありましたが、そこで経験したことが現在の会社経営や経営理念に繋がっており、そして今回の出前教室に結び付い

ています。

有難いことに、入社以来、障害者福祉関係の施設を工事したり、私が児童自立支援員として勤務していた富山県立富山学園の寮舎の建て替え工事を弊社で担当したりと、自分の経験が強みとなる仕事を頂く機会が多くなり、縁を感じています。今は関係機関と連携する勉強会を開き、社会的養護が必要な子どもへの支援のひとつとして雇用の創出も出来ないかと模索しています。

前田建設株式会社の会社概要

弊社は1893年の創業で、富山県西部の小矢部市を発祥とし、現在は富山県富山市に本社を置き、主に富山県、富山市、小矢部市を中心とした建設工事を担いとしている地場ゼネコンです。民間工事では近年、子ども園や障害児のための福祉施設、歯科医院などの工事や、設計事務所からの依頼で住宅の工事を請け負わせて頂くことが増えてきました。近



年では富山県美術館の施工に携わりました。

また地中熱換気システムを利用した環境負荷の少ない持続可能なシステムを導入し、公共工事や新築の住宅において、お客様に提案をしま

す。社員数は29名で、近年は高校生採用を中心とし、社内には10代20代の若手社員も増えています。

前田建設株式会社の主な取り組み

弊社では近年、人材採用に注力しています。高校生のインターンシップや富山県独自の中学2年生を対象とした「14歳の挑戦」を受け入れながら、社内教育体制を整えてきました。現在は、倉庫の一部を改修して、社員の実習や研修に使える場を準備したいと考えています。

その他、社内電話やメール、ファックスの使用頻度を下げるために、2年前からビジネス版

LINEやスケジュール・工程管理のツールを積極的に導入し、コロナ禍でも会議はZOOMを使用することで、社内の連絡や各現場の情報共有を図ってきました。

富山市がSDGs未来都市に選定されたことと2021年に富山県がSDGs宣言を募集したことを契機に、弊社ではSDGsについて、積極的に取り組むようになりました。

● 出前教室を行うきっかけ

当時、専務であった私は、富山市立大久保小学校の耐震工事の現場【工事名 大久保小学校耐震補強工事 施工=前田建設・スター総合建設・牧野工業JV】に出入りした際、解体工事の騒音の中、仮設教室や狭くなったグラウンドで授業を受ける子ども達の姿を目にしました。6年生にとっては卒業間近まで工事が続き、新校舎で過ごすことがほとんどないまま、卒業を迎えてしまうことも気になっていました。また、コロナ禍により、社会科見学や遠足が中止になっていることや、全学年が体育館に集まることなくオンラインで集会を行っていることなどを校長先生より伺いました。

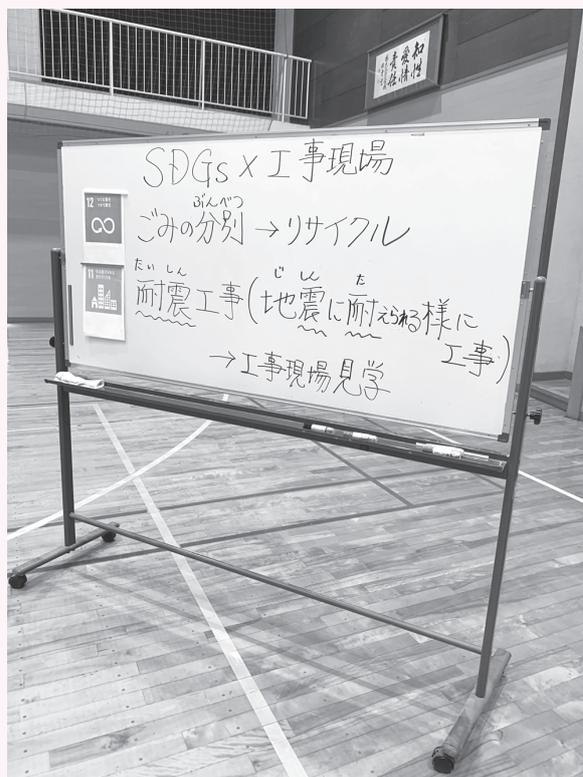
色々な面で我慢を強いられている子ども達を目の当たりにし、私は建設会社として何か子ども達にしてあげることはないだろうかと考えました。

そこで、校外へ出かける社会科見学の代わりに、工事現場の見学を提案しました。あわせて、弊社が力を入れているSDGsについて、子ども達に話をしあげられたら、と校長先生に相談し、話はとんとん拍子に進んでいきました。

● 出前教室の主な内容

① SDGsについて

富山市がSDGs未来都市に認定されていることにより、SDGsを軸とした学校運営をされていることを知りました。そこで、建設業界がどのよ



うにSDGsに取り組んでいるかを子ども達に理解してもらえたらという思いと、各学年の発達段階と興味に応じて、先生方からの要望をすり合わせ、テーマを以下のように決めました。

- 1年生：重機見学、はたらくくるまについて
- 2年生：耐震構造と三角形について
- 3年生：ドローン空撮映像と地域学習
- 4年生：校舎の地震の対策について
- 5年生：耐震工事と現場のリサイクルについて
- 6年生：耐震工事と働き甲斐について

2021年9月24日～10月4日の6日間にわたり、全学年に実施しました。

講義や映像視聴のみならず、クイズ形式や体験を伴う内容も取り入れ、子ども達の興味を引く内容となるよう工夫しました。子ども達からの質問も多く、関心が高まっている様子を毎回感じるこ



とが出来ました。

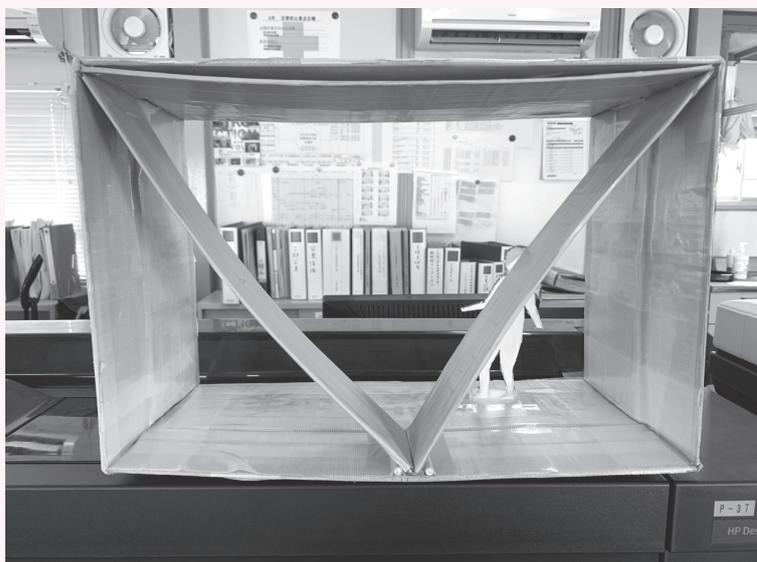
② 耐震工事の現場見学

耐震補強工事は、子ども達が安心して学校生活を送るための工事であることを説明し、「耐震・免震・制震」についても分かりやすく伝えていきました。その際には、若手社員が中心となり、現場にあるものを使い、模型を製作してくれました。中でも高校卒業1年目の新入社員は、段ボールで学校の教室の模型を作り、ブレースに見立てた三角形を出し入れして、今回の耐震補強工事の仕組みを伝えてくれました。

体育館でその説明をした後に、現場でその様子を実際に目にした子ども達からは歓声が上がりました。

日頃、騒音等で不快を感じている子どもも少なからずいたはずですが、工事の目的を知らせ、実際に現場で見せてあげられたことで期待感を少しでも抱いてくれたのではない

かと思います。「新しくなった校舎で、安心して、友達と仲良く遊んで、良い思い出を作って下さい。」という、1年目の新入社員から出た言葉に、彼自身も働きがいや達成感を感じていることが感じ取れました。



● 出前教室を終えて

6日間学校に足を運んだおかげで、すっかり顔を覚えてもらい、子ども達から挨拶や声をかけてもらうことが多くなりました。現場事務所には子ども達からのお礼の手紙や似顔絵付きのメッセージボードが届き、どれも大変心温まるもので、現場社員はこれまでも増して仕事に誇りを感じるようになったのではないかと思います。手紙に書かれていたいくつかの質問に、現場の若手社員が平仮名で丁寧に返事を書いていたことが分かったときは、私も大変嬉しく思いました。

また、私が日頃から社員にも伝えている言葉、「当たり前のことを、ばかにせず、ちゃんとやろう」の頭文字をとった「当たりのABC」を出前教室の中で子ども達にも話したのですが、SDGsにつながる、わかりやすい言葉であったため、その後の学校生活の様々な場面で意識されているとのことでした。



● 出前教室を通しての弊社の成果

① 社員の学びの場に

自分達がやっていることを子どもにも理解してもらえるように伝える、という作業は、自分達の仕事を見つめなおし、仕事への誇りを再確認するための絶好の機会となりました。授業に至るまでの準備の負担は小さいものではなかったと思いま

すが、アイデアを出し合い、楽しみながら取り組む姿はとても頼もしいものでした。また「人前で話す」「わかりやすく伝える」など、現場でリーダーシップをとっていくにあたり必要なことを鍛えるための良い機会にもなりました。

② スムーズな現場運営

この出前教室が開催された大久保小学校耐震補強工事の現場は、共同企業体での工事、出前教

室も他社からの出向者も含めた6名のチームで行いました。より綿密なコミュニケーションが必要

となり、意思疎通が図られたことが工事にも良い影響を与えました。常に子ども目線で工事を進めることが共通理解されたことで、良い現場運営が実現されました。

③ 求人への良い影響

大久保小学校の現場では、常に地元の工業高校などからの現場見学を受け入れていたこともあり、親しみやすい現場の雰囲気作りや若手社員の配置を行っていました。先述した1年目の新入社員の出身高校の後輩は、応募前職場見学で大久保小学校の現場を訪れた際に「規律とメリハリのある現場の雰囲気と、和やかな現場事務所の雰囲気」を感じ取って、弊社を希望し、入社に至りました。

子ども達へ見せるだけでなく、魅せる姿勢が、現場のより良い品質確保や社員自身の働き甲斐に繋がったと確信しています。

彼は、今、1年目の社員としてインターンシップに来た高校生の受け入れを担い、会社説明を通して、入社の際や働き甲斐を伝えています。

地元富山の高校生に繋がりをもってもらい、地元富山で働く意味や目的を考え、そして地域貢献を見据えた働き方に魅力を感じてもらうきっかけを与えることが、弊社や建設業界に興味を持ってもらう第一歩になると思います。

● 終わりに

将来、大久保小学校の子ども達が、弊社の現場見学や選考試験に来てくれて、再会することができたら…。時々そんなことを考えます。小学校の時に体験した母校の耐震工事、その工事をしていただいたおっちゃん達から教えてもらったことが心に残っていて建設業界を志望した…そんな子どもがひとりでもいてくれたら、と夢のようなことを考え、社員達と話をしています。

人材確保は建設業界において大きな課題ではありますが、即時結果が出るものではありません。人材育成という名の根っこをしっかりと張り巡らせ、種に肥料と水を惜しみなく与え続け、成長し花が咲くまで、辛抱強く待ったり寄り添ったりするのが近道であると考えます。今回の出前教室が、その取り組みのひとつとなっていくことを願い、今後もこのような取り組みを続けていく思いでいます。

また、建設業を取り巻く様々な業種で職業体験イベントなどを実施し、子ども達に興味を持ってもらうことはできないか、とも考えています。さ

らには、前職の福祉の世界で、人と人を繋ぐ仕事をしてきた経験を活かし、社会的に課題を抱える子ども達の成長後の働く場を提供し、自社で教育、育成し、社会に恩送りする形を作り上げていくことも目指しています。

*

弊社のある富山県は、収入や健康といった外形的な価値だけでなく、自分らしく心豊かに幸せにいきいきと生きられることを目標とした「ウェルビーイング」の推進に力を入れています。建設業も、安全で使いやすい空間や環境づくりや、達成感のある仕事を通して、このウェルビーイングに貢献できると私は考えます。

「当たり前のことを、ばかにせず、ちゃんとやろう」の「ABC」を心に刻み、会社設立100周年を目指し、一年一年を大切に、「あたりまえ」の反対語である「有難う(ありがとう)」と言っただけの仕事ができるよう、日々精進していきたいと思っています。